

## オープンプラン型 / 複合施設内にある保育施設における 障がい児保育とその環境に関する研究

A report on environment for children with special needs  
at an open type nursery and a nursery in a complex

○林志伸\*, 古賀政好\*\*, 山田あすか\*\*\*  
Shinobu HAYASHI, Masayoshi KOGA and Asuka YAMADA

This paper reports the results of a survey conducted on two day-care facilities that have different policies for childcare and spatial arrangement, but have created an inclusive environment together, to examine the actual conditions of relationships with users of multifunctional facilities regardless of their disabilities, spatial arrangement according to the characteristics of their disabilities, and corresponding relationships with other people. In addition, we will summarize the daily activities of individual preschoolers, the conditions of their stay, and the actual conditions of their activities.

*Keywords : Open Plan, Nursery School, Handicapped Child, Inclusive, Actual Activities*

キーワード：オープンプラン，保育園，障がい児，インクルーシブ，活動実態

### 1. 研究の背景と目的

#### 1.1 社会的背景

近年では保育所・幼稚園・認定こども園に通う特別支援ニーズのある児童数は増加傾向で、障がいの有無に関わらずに共に育ち合う統合保育やインクルーシブ教育が推進されている。この「包括的な保育」は年齢や能力でクラス分けを行わずに行う保育で、多様な子どもが同じ保育単位（クラス）に含まれる。一方、こども施設では、運用方針として異年齢保育や柔軟な保育単位（クラス）運用などのオープンシステム型保育の導入事例が見られる。また建築計画分野ではクラス・学年単位によらずに一体的に計画された保育室を家具や設えで仕切って使うオープンプラン型施設や、高齢者施設など他機能と複合する共生型複合施設の計画例が見られる。これらにより、児童らの主体性を尊重し、年齢や障がいの有無によらない育ち合いの環境をつくるねらいのもと、開放的でいわゆる「教室」型の仕切

り壁をもたないオープンな保育室の計画例が増えている。他方、こうした開放的な空間では過度な刺激が苦手な子どもにとっては適応が困難な場合があり、刺激のコントロールやカームダウンスペースの整備など、特別支援ニーズを包摂する保育の場としては課題も見出されると考えられる。また増加する共生型複合施設では他の施設やその利用者がある環境下では、より多様な刺激があることから、場合によっては児童の適応困難が発生する可能性も懸念される。いわゆる共生型施設は自主事業を組み合わせた地域密着型の小規模事業所での実践に端を発するが、認可保育所との複合化などある程度の規模を有する施設の共生型化の動向も見られる。このため、特別支援ニーズのある園児にとってそうしたオープンシステム・オープンプランでの保育環境や、多様な刺激のある複合型施設という環境ではどのような配慮が必要かについては実態の把握や建築計画上の検討が必要だと考えられる。

\* 東京電機大学未来科学部建築学科 学士課程

\*\* (株)竹中工務店 / 東京電機大学非常勤講師・博士 (工学)

\*\*\* 東京電機大学未来科学部建築学科 教授・博士 (工学)

\* Undergraduate course, Tokyo Denki University

\*\* Takenaka Corporation / Part-time lecturer, Dept. of Arch., School of Science and Tech. for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr. Eng.

\*\*\* Prof., Tokyo Denki University, Dr. Eng.

## 1. 2 関連する既往研究

「特別支援ニーズの高い専門的な保育や療育の場」となる、障がい児の就学前通所施設や特別支援学校での活動実態や環境整備に関する研究がある<sup>1)</sup>。また「包括的保育の場」については保育施設での障がい児の受け入れ実態<sup>2)</sup>やフィンランドの保育施設での事例調査<sup>3)</sup>、発達障がい児と他者との関わり方<sup>4)</sup>、なども関連研究として挙げられる。多様な共生型施設では、スタッフや利用者が相互に豊かな関係を築ける関係性や施設運営が必要だと述べている研究がある<sup>5)</sup>。また、空間構成による利用者同士の関わりは必ずしも見いだされるものではない<sup>6)</sup>。

## 1. 3 本稿の目的

本稿ではオープンプラン型保育施設での特別支援ニーズを包摂する環境整備についての知見を得ることを目的に、いずれも障がい児の保育を積極的に受け入れている、オープンプラン型保育施設と、共生がテーマの複合施設内保育施設の2事例を対象に園児の行動軌跡と活動実態を整理した。

## 2. 調査概要

施設概要と調査概要を表1・2<sup>8)9)</sup>に示す。以降に詳述する、オープンプラン型の認可保育所であるよこはま風の遊育園と、障害者生活支援と就労支援・高齢者通所介護・地域コミュニティ支援との共生型施設であるJ's保育園において、各年齢クラスでの園児の一日の滞在場所を10分ごとに記録するマッピング調査と各クラス1人の園児の行動追跡調査を行った。よこはま風の遊育園では3, 4, 5歳の障がい児を1人ずつ、計2日間で行動を追った。J's保育園で3, 4歳の健常児

表1 調査概要

【調査概要】		よこはま風の遊育園	J's保育園
名称		よこはま風の遊育園	J's保育園
所在地		神奈川県横浜市南区六ツ川	宮城県岩沼市中央
敷地/延べ床		1362㎡/369㎡	3980.31㎡/887.47㎡
建物形態		軽量鉄骨平屋建て	鉄骨造2階建て(保育園は1階)
開所時間		平日:7時~20時 土曜日:7時~19時	平日:7時~19時 土曜日:7時~18時
開所・認可		2009年8月	2021年4月
利用人数		(2021年11月9日当時)	(2021年11月5日当時)
		3歳児クラス:14人(8:6:2)各年齢 4歳児クラス:11人(6:5:2)1クラス 5歳児クラス:12人(4:8:2)計75人 (男児数:女児数:保育士数)	3歳児クラス:16人(9:7:1)各年齢 4歳児クラス:17人(8:9:1)1クラス 5歳児クラス:11人(7:4:2)計77人 (男児数:女児数:保育士数)
平面図			

と5歳の障がい児を各1人ずつ、4日間で行動を追った。なお行動追跡した調査園児を記号化し、0~5歳児=0~5, よこはま風の遊育園=Y, J's保育園=J, 障がい児=A, 健常児=Bで表記する。

## 3. よこはま風の遊育園

### 3. 1 施設概要

オープンな保育室をもつ保育所で、園庭に築山がある。屋内にホール(遊戯室)や走り回れるような広い空間はもたない、元公立保育所の旧い園舎に若干の改修を加えて使用している。保育室内に家具で台をつくるなど、保育室で動的な活動もできる設えをほどこしている。また、0歳と1歳以外は保育単位ごとを間仕切る壁のない一体型の空間で、2歳と3~5歳のベースとなる遊び空間は時期によって柵で仕切られており、その場合には園児らの行き来はできないが互いに遊ぶ様子を見られる。これは年間を通して、時期によって年度ごとの保育の確立や保育のねらいに即した保育集団の運用がなされているためである。また運営上の工夫として、保育者が障がいをもつ園児それぞれの特性に合わせて、活動や関わりの様子を見ながら家具の配置を変え、状況に応じて環境を整えている(図1, 2)。

### 3. 2 行動軌跡

調査日ごとに3, 4, 5歳の園児1人ずつの一日の滞在場所と滞在時間の相手と長さを示した行動軌跡を図3, 4に、各園児の滞在场所と滞在時間、滞在相手との位置関係、特徴的な場面を図5, 6に整理する。

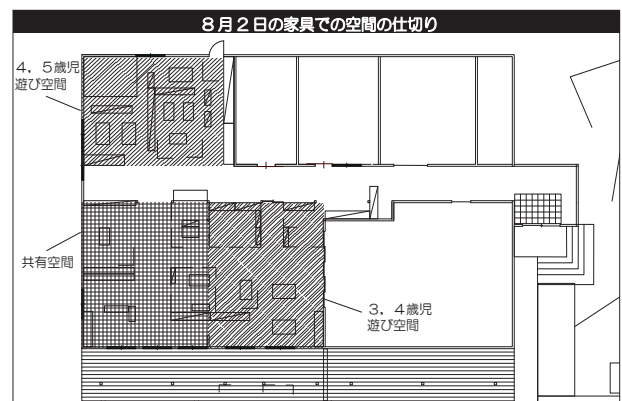


図1 8月2日の家具での空間の仕切り

表2 観察調査概要

観察調査		よこはま風の遊育園	J's保育園
名称		よこはま風の遊育園	J's保育園
調査期間		2021年8月2日、11月9日の2日間 10:00-16:00	2021年11月2日~11月6日の4日間 8:45-18:00
調査人数		のべ4名	のべ20名
調査内容		①年齢クラスごとのマッピング調査(10分間ごとに観察用紙に記録) ②園児の一日を追う調査(延べ人数) 3歳児クラス:1人(ダウン症) 4歳児クラス:2人(一人はADHD) 5歳児クラス:1人(発達障)	①年齢クラスごとのマッピング調査(10分間ごとに観察用紙に記録) ②園児の一日を追う調査(延べ人数) 0歳児/1歳児クラス:1人/1人 2歳児/3歳児クラス:2人/4人 4歳児/5歳児クラス:4人/3人 ※5歳の障がい児は発達障

■ 2021年8月2日調査時 4YAが保育室から出て廊下に複数回避難している様子が確認できる(図3)。また3,4歳児が遊べる空間では5分以上の滞在があり、つきみやブロックなどの遊びがみられ、他学年との共

有スペースではほとんど活動していないことがわかる(図3)。

■ 2021年11月9日調査時 3YA, 4YAは保育室全

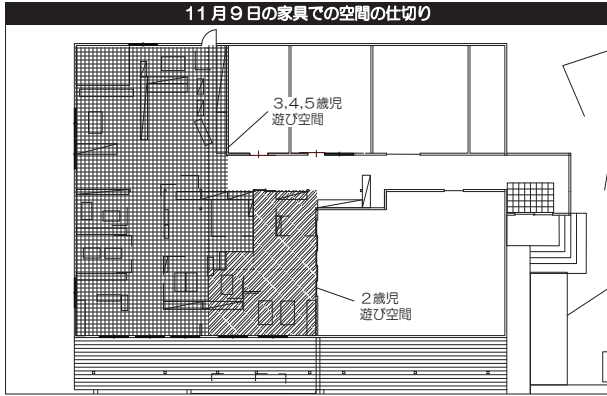


図2 11月9日の家具での空間の仕切り

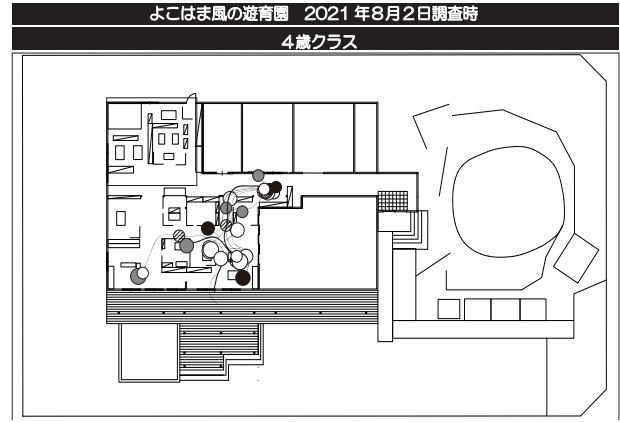


図3 8月2日の行動軌跡

凡例 ○: 保育士もしくは保護者と ●: 保育士および他の園児と ○: 他の園児と □: 一人で ●: 向かい合わせ ▲: 向かい合っていない ■: 1人 ▼: 様子をうかがっている

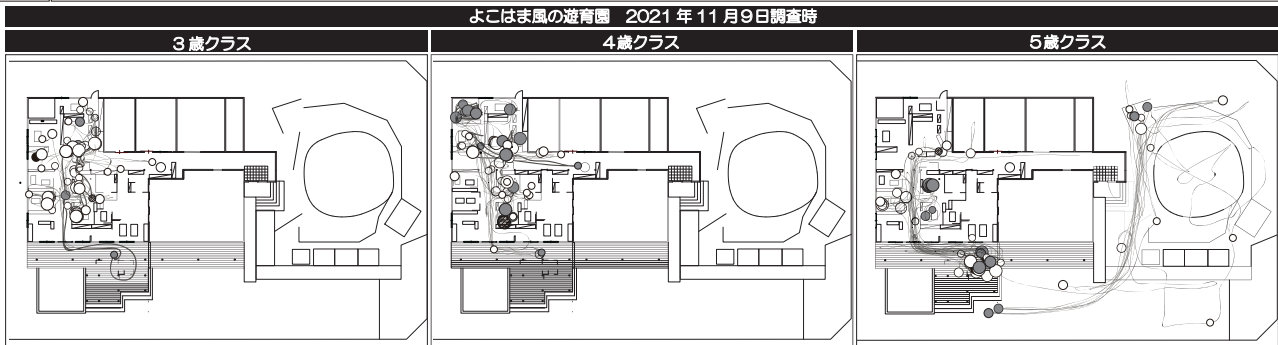


図4 11月9日の行動軌跡

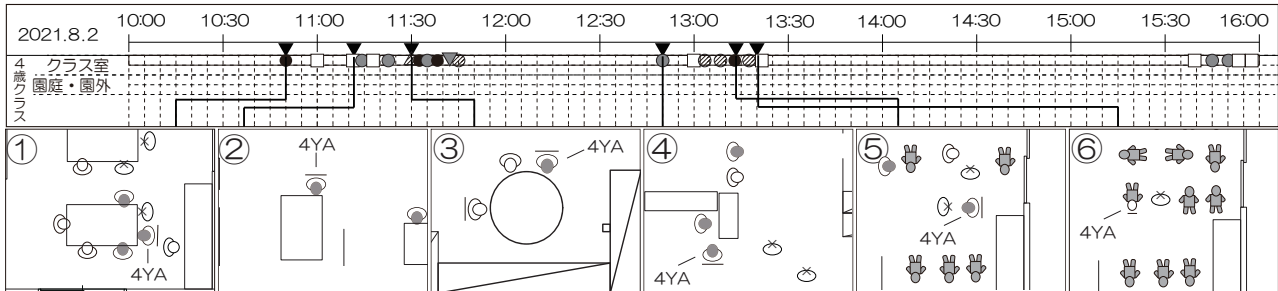
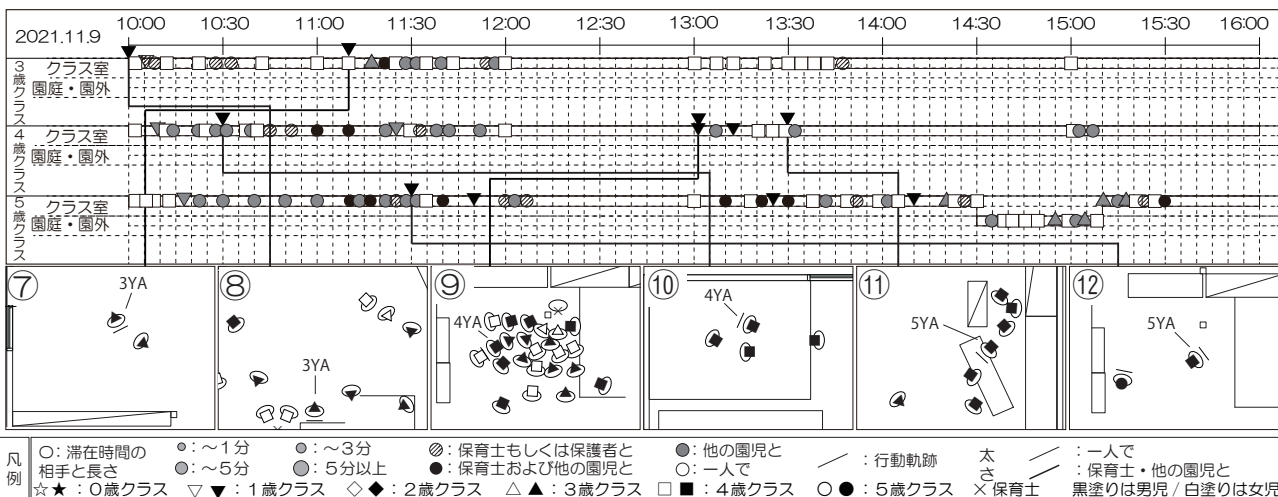


図5 8月2日の一日の生活展開と活動場面



凡例 ○: 滞在時間の相手と長さ ●: ~1分 ○: ~3分 ○: ~5分 ○: 5分以上 ○: 保育士もしくは保護者と ●: 保育士および他の園児と ○: 他の園児と □: 一人で ●: 向かい合わせ ▲: 向かい合っていない ■: 1人 ▼: 様子をうかがっている

☆: 0歳クラス ▼: 1歳クラス ◇: 2歳クラス ▲: 3歳クラス □: 4歳クラス ○: 5歳クラス ×: 保育士

太さ: 一人て 黒塗りは男児/白塗りは女児

図6 11月9日の一日の生活展開と活動場面

体に滞在場所が分散し、複数の居場所があることがわかる。5YA はテラスでの活動の影響から特定の場所での滞在が見られる(図4)。3YA, 4YA, 5YA のなかでも一人で遊ぶ、他の園児と遊ぶ園児がおり、過ごし方が異なる(図3, 4)。

### 3.3 一日の生活展開と活動場面

■ 2021年8月2日調査時 4YA は全体での遊びの間、机の下に潜る様子や他の子と距離をとり(図5③)、気持ちを落ち着かせている様子がうかがえる(図5②)。また保育者と一緒に作業する場面や(図5①)、他の子と一緒に遊ぶ場面(図5④)が見られ、周囲との関わりがある。午睡のときには保育者が本の読み聞かせをしていた(図5⑤⑥)。

■ 2021年11月9日調査時 3, 4歳児が昼寝をしている間、5歳児が園庭で遊ぶ。8月2日の調査時とは空間の仕切り方が変更されており、障がい児一人ひとりの特性に配慮して保育者が様子を見ながら家具や仕切りを移動させていることがわかる(図1, 2)。3YA は他の園児とは別の方向を向いて一人で遊ぶ様子や(図6⑦)、皆が遊ぶ様子を椅子に座り眺める様子が確認された(図6⑧)。4YA は保育者の方を向きながら別のことをする場面(図6⑨)や他の園児と遊ぶ場面(図6⑩)がみられ、気持ちを落ち着かせる様子はあまり見られなかった。5YA は他の園児が同じ遊びをしても一

緒に遊ぶ場面は確認できなかった(図6⑫)。

### 3.4 小括

行動追跡調査の対象とした障がい児の活動の様子として、他の園児と離れすぎずに、しかし別の方向を向き一人で遊ぶ様子や、皆が遊ぶのを椅子に座って眺める様子が確認された。また廊下の机がある場所に移動したり、机の下に隠れる動きなどが確認され、選択肢のある環境のなかで自分で他者との距離や気持ちをコントロールしている様子がうかがえる。一時的に距離を取って気持ちを落ち着かせる様子や、他の子と一緒に遊ぶ様子が見られ、そのときどきの自分に合った状況見つけながら過ごすことができる環境であると考えられる。

## 4. J's 保育園

### 4.1 施設概要

高齢者・障害者・こどもを対象とする複数の福祉機能が複合的に運営されている施設で、保育所のほかに障害者就労継続支援、高齢者デイサービスなどを運営しており、入浴施設やフィットネス、地域住民の生活・交流支援や障害者就労支援に寄与する飲食店が併設されている。保育所の園庭は共生型デイサービスの部屋に面し、自然な交流のきっかけをつくっている。また吹き抜けホールは地域交流のスペースとしての利用も

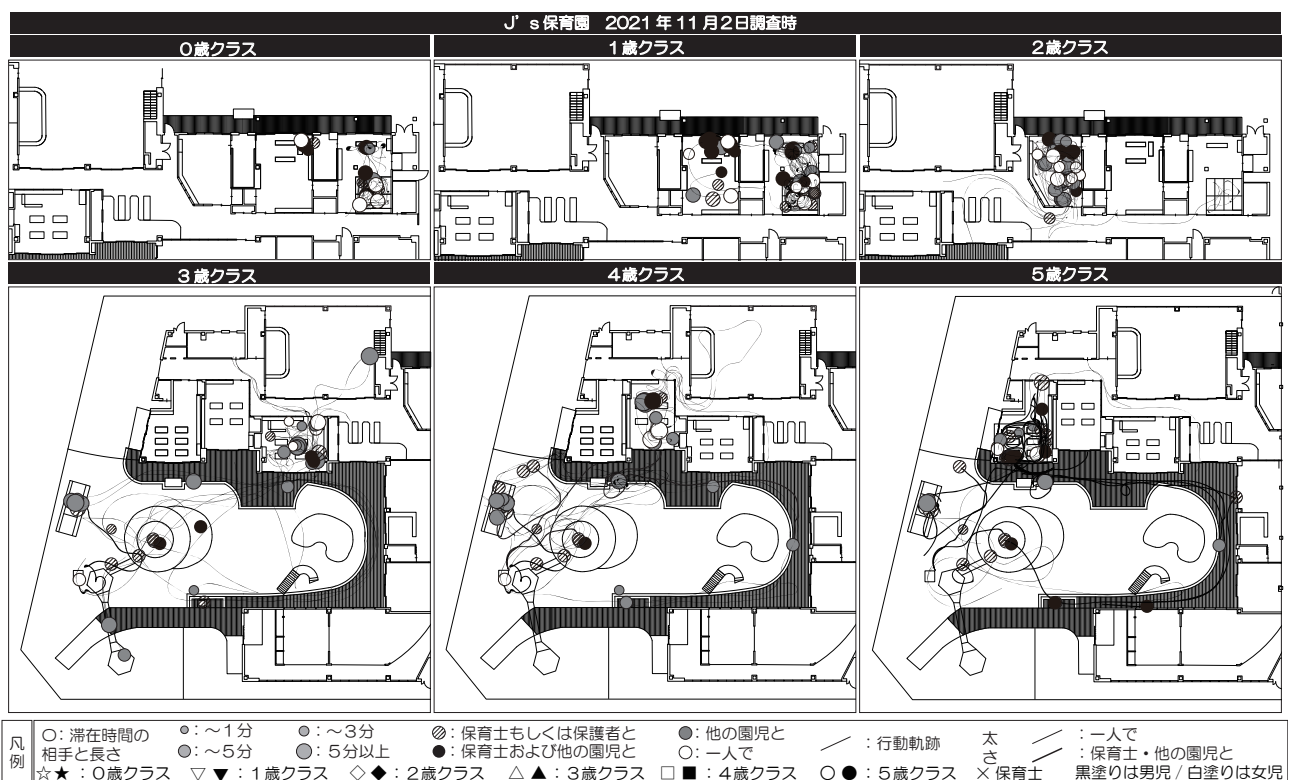


図7 11月2日の行動軌跡

想定されている。保育の特徴として、基本的には年齢別保育であり学年によるクラスごとに保育室が分かれるが、園庭では異年齢が混ざり遊ぶ。園庭に出るときは年齢と対応するクラスごとに異なる色の帽子をかぶっており、外遊びでは学年をまたいだ交流がある。

#### 4.2 行動軌跡

3, 4, 5歳の各1人の園児について、それぞれ観察調査を行い、一日の滞在場所と滞在時間の相手と長さ、

行動軌跡を図7～10に示す。また園児の滞在場所と滞在時間、滞在相手との位置関係、特徴的な場面を図11～14に示す。

■ 2021年11月2日調査時 前日の雨で地面が濡れていたため屋外での午前中の活動が園外で行われ、午後は園庭での活動が一部制限された(図7)。0, 1歳児が同じ空間にいることが確認できる(図7)。

■ 2021年11月4日調査時 3, 4, 5歳児ともに他

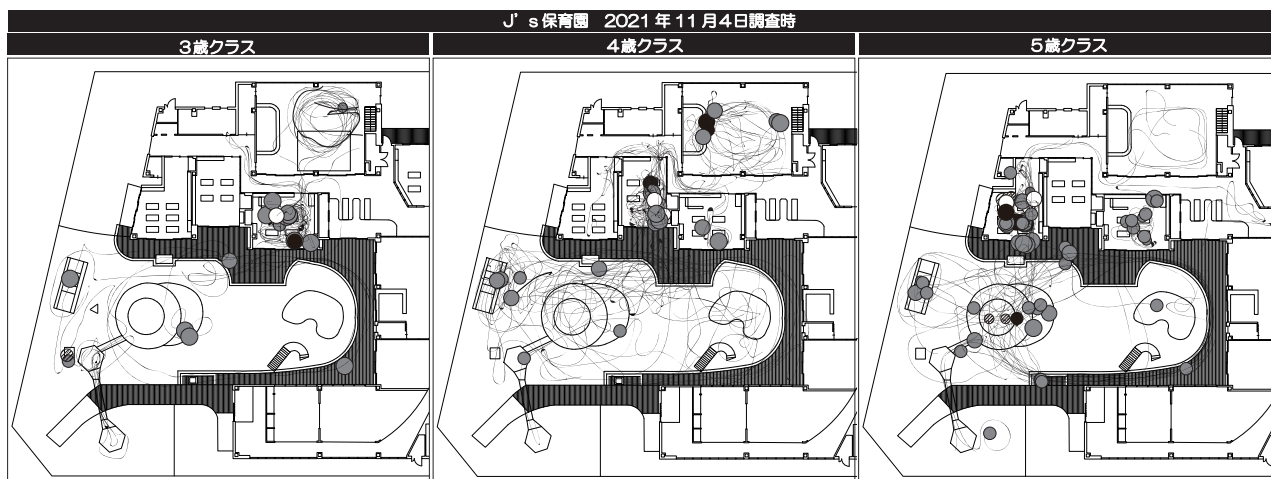


図8 11月4日の行動軌跡

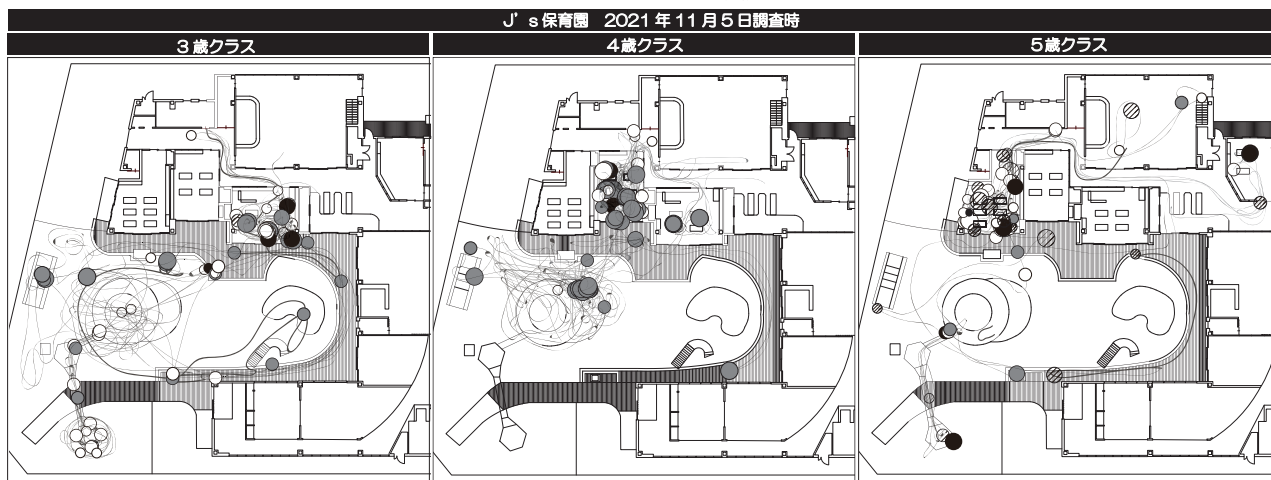


図9 11月5日の行動軌跡

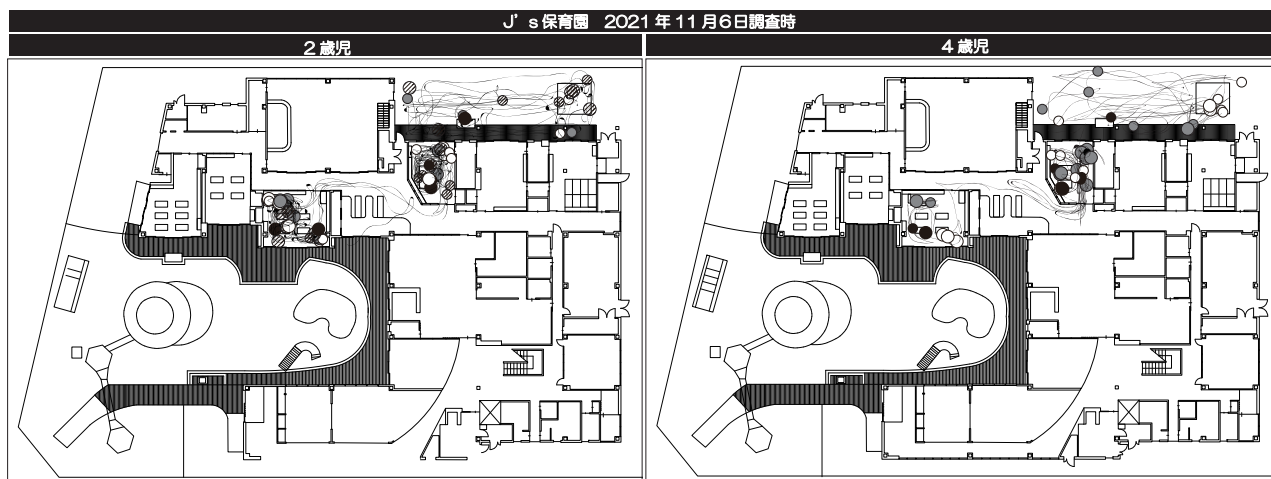


図10 11月6日の行動軌跡

の園児と関わる場面が確認できる(図8)。

■ 2021年11月5日調査時 3,4歳児は園庭で動き回るが<sup>注1)</sup>、5歳児はあまり園庭を動き回る様子が確認できず室内では一人で活動する(図9)。

■ 2021年11月6日調査時 本調査日は希望制の保育で、異学年で活動していた。3,4歳児のなかに1,2歳児もおり、屋外での活動を小園庭で行っていた(図10)。保育では2歳児と3歳児の部屋が使われており、

2JBは4JBと比べて動きがある様子が確認できる。

#### 4.3 一日の生活展開と活動場面

■ 2021年11月2日調査時の活動展開 0JBと1JBと一緒に朗読を聞く場面(図11③)や0歳児の部屋と一緒に遊ぶ場面(図11④)が見られる。2JBは同じ年齢の園児と遊ぶ様子(図11⑤)や朗読を聞く様子が見られた(図11⑥)。3JBは他の学年の発表をホールの隅に座り見学する場面(図11⑦)や延長保育で

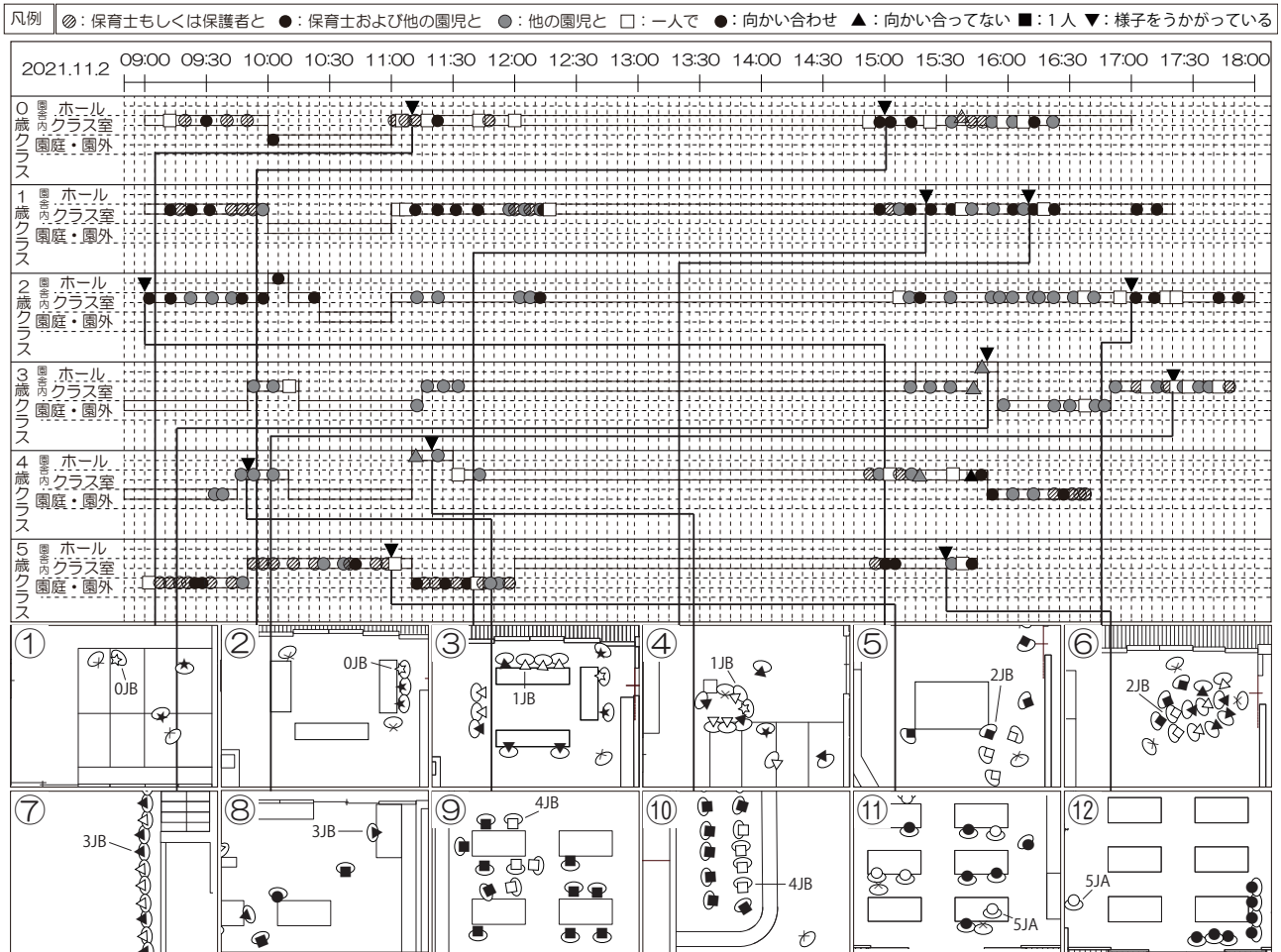


図11 11月2日の一日の生活展開と活動場面

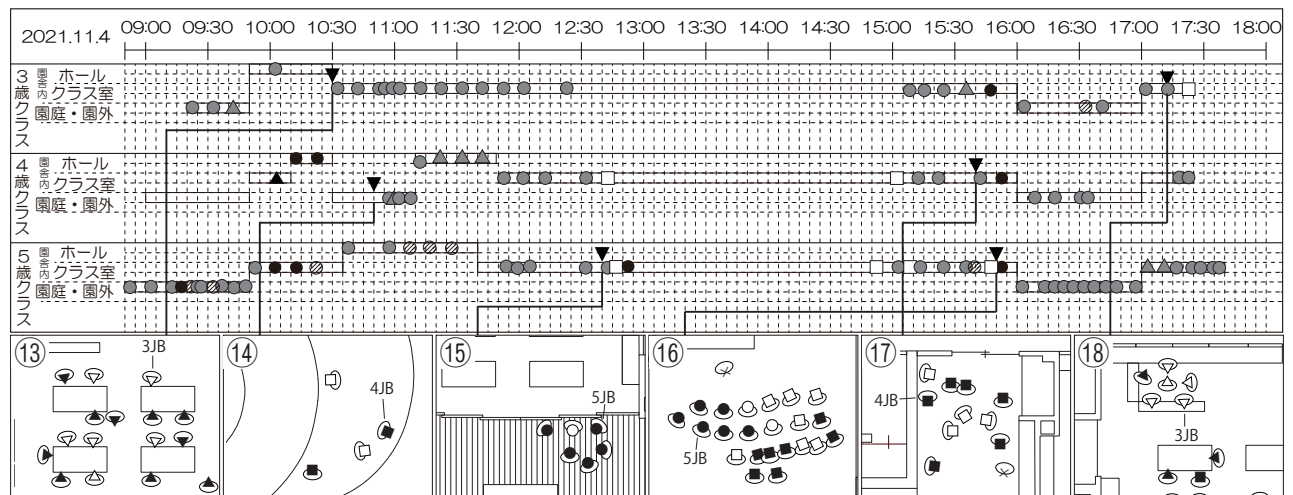


図12 11月4日の一日の生活展開と活動場面

の自由時間の際に保育室の端にある机に座り1人で本を読む場面が確認された(図11⑧)。4JBは皆と椅子に座り遊ぶ様子(図11⑨)やホールでイベントの歌の練習を行う様子が見られた(図11⑩)。5JAは机の下にもぐる様子(図11⑪)や他の園児と同じ活動をせずに1人で端の方で遊ぶ様子(図11⑫)が見られた。

■ 2021年11月4日調査時の活動展開 3JBは皆と遊ぶ場面(図12⑬)や家具で仕切られた空間で他の園児と遊ぶ場面が見られた(図12⑭)。4JBは隣の園児と同じ方向を見ながら遊ぶ場面(図12⑮)や他の学年の部屋で本を読む場面(図12⑯)が観察された。5JBは教室の外のテラスで遊ぶ様子(図12⑰)や他の学年と朗読を一緒に聞く場面(図12⑱)が特徴的であった。

■ 2021年11月5日調査時の活動展開 朝のラジオ

体操では保育所以外の施設利用者も参加する(図13⑳)。園児たちが歌っている中、5JAが席を立ち一人で遊ぶ様子(図13㉑)や、隣の園児と後ろの方と一緒に絵本の朗読を聞く様子が見られた(図13㉒)。また3JBと4JBは他の子との活動(図13㉓㉔)や、皆が遊ぶ様子を眺める、一人で歩き回る(図13㉕㉖)、などの場面が観察されたが、他の園児との活動場面は確認できなかった。

■ 2021年11月6日調査時の活動展開 本調査日は土曜日で、希望制の保育である。4JBは1人で砂遊びをする場面(図14㉗)や誰もいない場所で1人で遊ぶ様子(図14㉘)が見られた。午睡の際には皆で手遊びをする様子が見られた(図14㉙)。2JBはおもちゃを独占できるように家具で小さな空間に仕切り、その中で1人で時間を決めて遊ぶ場面が確認された(図14

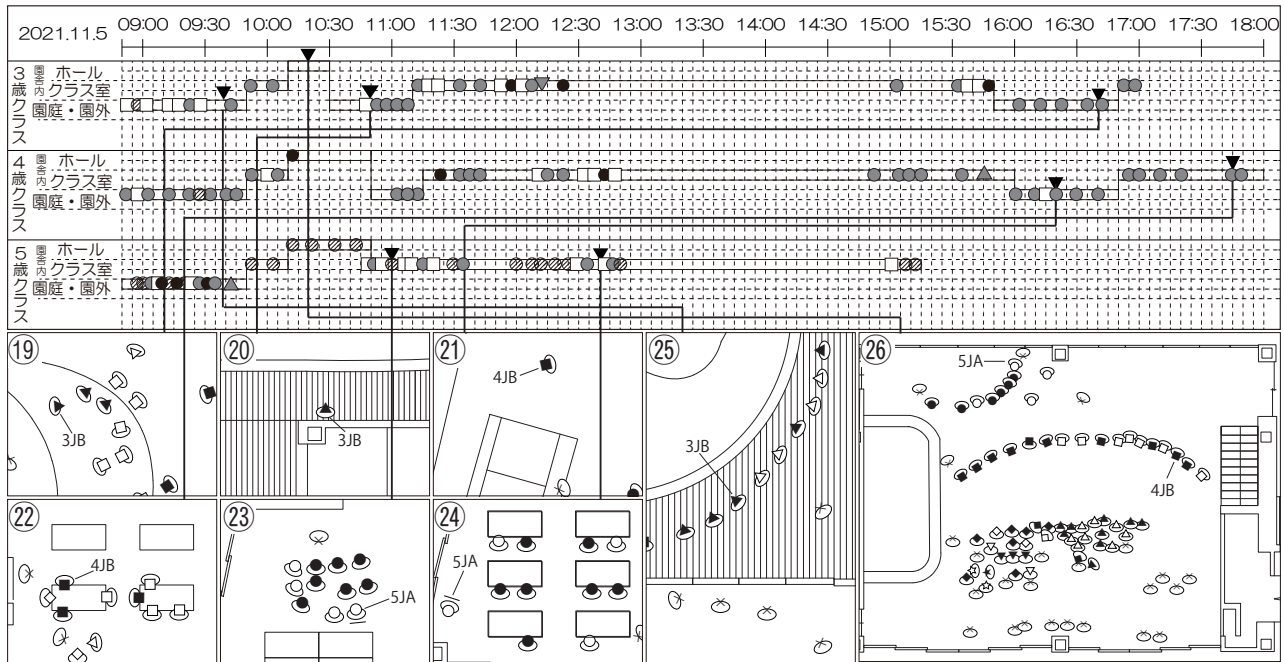


図13 11月5日の一日の生活展開と活動場面

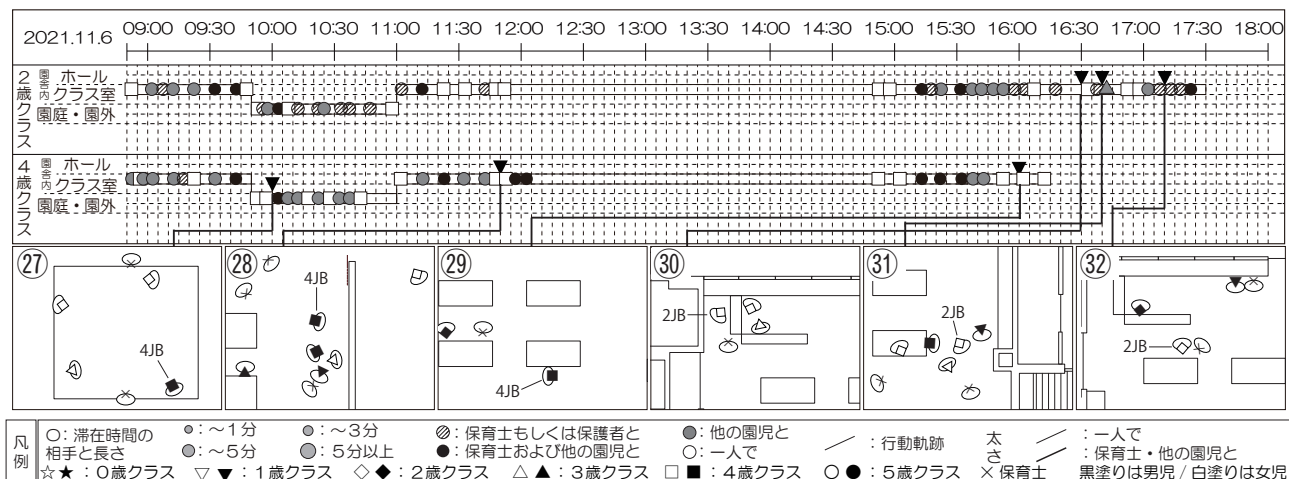


図14 11月6日の一日の生活展開と活動場面

⑳)。1歳の園児と同じ活動をしている場面でもそれぞれで遊ぶ様子が伺える(図14㉑)。また保育者と一緒に遊ぶ場面が確認された(図14㉒)。

#### 4.4 小括

3JB, 4JB, 5JBは皆の輪に混ざり遊ぶ様子が見られたが、5JAは集団の中でも一人で行動する場面や隣の園児と集団の後ろの方におり、皆で同じことを行うこと、皆の輪に入る場面は確認できない。3, 4, 5歳児ともに、他の施設の人との関わりがホールでの活動以外見られない。朝のラジオ体操には保育所以外の施設利用者も参加し、中には障がいのある成人の利用者もおり直接的な会話等はないが時間を共有している。また保育所の発表会の踊りを年少児らや障がいのある成人利用者が観客として参加する場面や、吹き抜けのホール上の2階フィットネスに通う人たちが、ホールの様子を伺う場面などが確認でき、施設利用者が多世代にわたり園児の活動を見守る環境である。

### 5. まとめと考察

#### 5.1 本稿のまとめ

本稿では障がい児がいる保育施設での行動軌跡と活動実態を整理した。よこはま風の遊育園ではその時々で状況で家具配置を変更するなど障がい児のための環境をコントロールしていた。障がい児は他園児と遊ぶ子や一人で遊ぶ子など、個々によって様子が異なった。また複数の保育者が連携しながらオープンな保育室を見守り、障がい児も健常児と同様にしていた。一方J's保育園では障がいの有無によらずに複合施設内にいる人たちとの関わりがあった。またクラスごとの担任のほかに1人の保育者が1人の障がい児につききりで支援していた。

#### 5.2 考察

2施設の障がい児への支援の仕方の差異は必ずしもオープン型と複合型の違いによる影響ではないが、園による支援の仕方や包摂的な環境へのアプローチが異なると考える。オープンプラン型の保育所を計画する際には、家具や仕切りを活用して空間を分割することや、保育室から少し離れた場所にも居場所をつくることで特別支援ニーズのある園児を包摂する環境につながると考える。また共生型複合施設内の保育所では視覚的につながるホールや園庭などを設けることでの間接的な施設利用者との交流、複合する他施設との運営上の連携による直接的な交流を含めて計画された施設での交流様態を報告した。こうした計画は、障がいの

有無に関わらない多様な人との関わりを誘発する包摂的な環境の構築に寄与していた。

#### 謝辞

調査にご協力いただいたよこはま風の遊育園、J's保育園の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。本研究は科学研究費補助金(基盤C):オープンシステム型保育/教育と特別支援との両立を実現する包摂型環境設計の研究(研究代表者 古賀政好, 課題番号19K04796, 2019-2021)の一環として行われました。

#### 注釈

注1) 園庭に水たまりが残っており、園庭の半分が使えない状況のため、活動が制限されている

#### 参考文献

- 1) 古賀政好・山田あすか、アンケート調査を主とした就学前障がい児通園施設の運営実態と保育者による環境ニーズ、日本建築学会計画系論文集、第79巻、第695号、pp.59-68、2014.01
- 2) 橋本彼路子・定行まり子・白川賀津子：地域における障がいのある児童の保育と教育に関する研究-保育施設アンケート調査と障がい児就学前サポート調査から-、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.421-422、2017
- 3) 千葉亜美・山田朝子・本杉一磨・他：異年齢グループ保育の活動実態を背景とした子どもの活動から見る空間特性-フィンランドの就学前保育施設「パイバコティ」に関する研究 その3-、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.151-152、2011
- 4) 中島美登子・他：「構造化手法を用いた早期療育空間における自閉症児の行動に関する研究-構造化された環境での自閉症児の行為とコミュニケーション-」地域施設計画研究論文 35、pp.41-46、2017.7
- 5) 中島美登子：「富山型」小規模多機能サービスの在宅所への導入に関する研究-利用者スタッフ、知的障害スタッフの三者の関わりに着目して-、都市住宅学、No.67、pp.50-55、2009
- 6) 江文菁・他：富山型デイサービスにおける空間構成と利用者のかかわりに関する研究-地域共生ケアホームに関する研究-、日本建築学会計画系論文集、第77巻、第675号、pp987-994、2012.5
- 7) 崔喜媛・西出和彦：統合保育環境における発達障害児と他者とのかかわり方に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.105-106、2009
- 8) よこはま風の遊育園 HP <https://yuiku.jp/yokohamamutsukawa/> (参照日 2021.3.7)
- 9) J's保育園岩沼 <https://www.city.iwanuma.miyagi.jp/kyoiku-sports/hoiku/documents/syoukai-js.pdf> (参照日 2021.3.7)